



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第98号

発行日
令和6年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| P-2 : 自然公園クリーンデー清掃作業 | P-11 : 紅葉谷公園補修・清掃作業 |
| P-3 : 入浜池定点観察①・維持管理作業① | P-12 : スカイ歩道整備・清掃作業 |
| P-6 : PV会員交流会 倉敷市重井薬用植物園 | P-13 : 編集後記 |
| P-8 : 自主観察会(3)島外調査 三高砲台跡 | |

「 岸根鼻砲台跡から宮島を望む 」



穏やかな海面を行き交う船の航跡や魚釣り船ののどかな風景がきれいでした。
そして宮島は表から見ても裏から見ても寝観音像です。

広島湾と呉軍港への敵艦船の侵入を阻止するため設置された広島湾要塞は、ここ大那沙美島(大那佐美島)を挟んで厳島海峡と那佐美瀬戸に大那佐美島砲台、鶴原山堡壘、鷹ノ巣低砲台、岸根鼻砲台、鷹ノ巣高砲台、三高堡壘と6か所築られました。

ほかに大野瀬戸(室浜砲台)。早瀬の瀬戸(大君低砲台、早瀬第一堡壘、早瀬第二堡壘)。音戸の瀬戸(高鳥堡壘、休石砲台)。本土阿賀(大空山堡壘)の計13か所に築かれています。

(文 舛田 祐子 写真 河野 進)

自然公園 クリーンデー清掃作業

日時：9月7日（土）9:00～10:30

天気：晴れ

行事推進員：種本 兎谷

参加者：青木 麻生 大西 折出 恩田 河野

末原 種本 兎谷 豊原 畑野 増田

舛田 三戸 森 吉賀 以上 16 名

環境省：山脇保護官、大高下 AR 2 名

環境省と廿日市市の主催で行われた「自然公園クリーンデー」に参加してきました。この活動は自然公園の美化思想をより広く普及させることを目的として、毎年開催されています。今年は9月になっても猛暑が続いており大変暑い中での開催となりましたが、環境省の山脇自然保護官、大高下 AR、廿日市市役所職員9名、当会会員16名、一般参加者3名の計30名の参加となりました。

まず、山脇自然保護官、廿日市市宮島支所長の挨拶の後、①有之浦海岸、②小なきり海岸、③栈橋～シーサイドホテル、④栈橋～うぐいす歩道の4つの班に分かれ、それぞれの担当場所にて清掃活動を行いました。私は小なきり海岸の担当となりましたが、日陰は少なく、白い砂浜からの照り返しは強く、

途中水分補給休憩を取りながらの作業でした。連日良い天気が続いていたからか海岸に流れ着いたゴミの量は思っていたよりも少なく、予定より少し早い終了となりましたが、皆さん何事もなく作業を終えることができたことにホッとしました。他の班も事故もケガもなく終わったと聞きましたのでよかったです。来年も暑さに負けず参加したいと思います！



主催者挨拶（環境省）



小なきり海岸清掃



集合写真

（ 文：種本 写真：河野 ）

入浜池定点観察 ①

維持管理作業 ①

日時：9月14日（土）9:00～13:00

天気：快晴

行事推進員

観察部会：大西 小川 穂井田 松田

元広 横路

環境整備部会：恩田 佐藤

参加者：麻生 岩崎 折出 恩田 河野 千日
長村 畑野 穂井田 舛田 松田 元広
森 山本(昌) 以上 14名

【維持管理作業】 恩田浩幸

久しぶりの入浜清掃を終えて！

入浜清掃を前に思ったのは、やはり先日の台風の影響か。なるだけゴミは少ない方が良くは思っていました。短い時間にあっと驚くほど集まりました。中でも発泡スチロールとペットボトル。発泡スチロールは長く海洋を漂ったせいか角が丸くなっていました。集め始めてあつという間にペットボトルだけで一袋いっぱい。これらの大半は不法投棄が原因だと思われます。

終礼のとき新入会員さんに感想を聞いていましたが、意外にもきれいだ。さらにもっと入浜をきれいにしていきたいと思いました。



【水質調査】 舛田祐子

調査班：麻生 千日 舛田

今夏の猛暑が拍車をかけたのか、打った測定点の杭の水位基準線は水面より高く上にあり、水面値はすべてマイナス、また調査地点が干上がり、杭自体がむき出しになっているところもありました。海からの流入はなく以前あった伏流水も見られませんでした。水温も高く調査結果は下記のとおりです。

2006年5月14日から始まった「入浜の自然調査」。その頃はヒトモトススキの群落があちこちに見られ、池は3か所の水源からの山水で潤い、ボートに乗って調査をしたこともあります。久しぶりの参加でその頃を懐かしく思い出しました。

R6.9.14(土)		満潮	19:36	327cm	干潮	12:32	104cm		
天候	晴れ	前日の天候	晴れ	測定参加者	麻生、千日、舛田				
気温	23.7	集合場所	日陰29℃	最低気温27.3℃最高気温35.2℃(気象庁データ)					
調査時間	9:41	10:18	9:49	9:55	10:06	10:13	10:22	10:32	
測定地点	A	B	中央付近	G'	E	F	海水	山水	
水流	なし	なし	なし	測定不能	なし	なし	—	◎	
油膜	なし	なし	なし		なし	あり	濁りなし	濁りなし	
杭、水位(cm)	-10	-9	—		—	-15	—	—	
水温(℃)	31	30	※32		※35	30.5	28	24	
水深(cm)	2	14	—		—	8	10	—	
PH	5	6	8		7	5	7	7	
塩分濃度	0.14	0.39	0.38		0.45	0.45	2.58	0	
COD	6	8	6		8	8	2	—	
池水の状況	※中央、E地点の水温は干上がっているため、杭に近いところで測定 ◎山水の流量は、7Lバケツ満水 23秒12								

参考：最近の広島（広島県）気象平均データ（気象庁のデータより）

	降水量	最高気温	最低気温
6月	332.5	27.5	20.3
7月	297	32.4	26.1
8月	53.5	35.5	27.2
9月(15日 まで)	5.5]	34.6]	25.8]



水質調査

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：穂井田 元広

入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の3地点で調査を行いました。

入浜池では、コサギが見られたほか、ヤマガラ、アオゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キビタキ（メス）、カワセミが見られました。その際に撮影したコサギ、ダイサギ、セグロセキレイ、ヤマガラの写真を添付します。

本日の嬉しい出会いは、コゲラでした。海辺のやや太い木の周りを飛び回りながら、時々幹にとまっては、餌を探したり、幹をついたりしていました。

皆様、お疲れ様でした。

入浜 野鳥定点調査

2024年9月14日 晴れ 9:30～11:00

種名	数	種名	数
トビ	5	セグロセキレイ	1
アオゲラ	1	ヒヨドリ	5
コゲラ	2	カワセミ	1
ダイサギ	3		
コサギ	1		
ヤマガラ	2		
シジュウカラ	3		
キビタキ(メス)	1		
メジロ	5		
		計12種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は『ひろしま野鳥図鑑』（2002年）日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による



コサギ (穂井田会員撮影)



ダイサギ (穂井田会員撮影)



セグロセキレイ (穂井田会員撮影)



ヤマガラ (穂井田会員撮影)

【植物観察】 山本 昌生

調査班：折出、山本(昌)



ヒトモトススキ調査

1. ネットB：親株周りの実生の生育状況

前回の4月の調査で生き残った1株が大きくなり、最大葉身長が45 cmから66 cmと大きくなっていました。これまで株数と分けつ数を数えていましたが、大きくなった1株の分けつ数を数えることができなくなりました。そのため分けつ数は多数として、生育状況を生育程度で表しています

(表1,写真1)。



写真2: 雑草除去前

2. ネットC: 新たに植えたヒトモトススキの生育状況

ネットCでは、植えたヒトモトススキ以外にも、エノコログサ、メヒシバ、イソヤマテンツキが生えていたため、これらの雑草を抜いてきれいにしました(写真2、3、4)。これらの草が生えたのはネットによりシカが食べることができなかつたからと思います。ネット内の除草は、すき間から手を無理やり入れて苦労しました。植えた6株のうち、3株(A-1,A-2,B-2)は非常に生育が良好で、2024年2月17日の調査時と比較し、ほとんどの株で大きく成長しています(表1)。

一方、B-1株は地上部がなく枯れたように見えました。C-1株は2月の調査では枯れたように見えていましたが、復活していました。これらの株は、2021年12月に入浜の株から高芽を採取し、栽培していた株です。栽培方法に違いがあり、①A-1,2株は鉢植えで腰水なし、②B-1,2株は鉢植えで腰水あり、③C-1,2株は土に植えずに露出した根をバケツ内の水に浸けて栽培した株で根は貧弱でした。サンプル数が少ないですが、移植後生育のよかった株は①②の鉢植えで育て、根の生育がよかった株であるという傾向がありました(表1)。このことから、移植に使う株は鉢植えでしっかりと根を育てる必要があることが伺えました。



写真3: 雑草除去後



写真4: 除去した雑草

表1. ヒトモトススキ調査結果
(2024.9.14 調査)

ネット	株No.	分けつ数 ¹⁾	最大葉身長(cm)	生育程度 ²⁾
B		多数	66 (45)	+++
C	A-1	8 (1)	82 (45)	+++
	A-2	15 (3)	81 (40)	+++
	B-1	0 (0)	—	—(枯死?)
	B-2	9 (3)	76 (41)	+++
	C-1	3 (0)	36 (0)	+
	C-2	2 (3)	35 (30)	+

- 1) 分けつ数は親株を含む
- 2) 生育程度を+の数で表した。+ : 生育悪い、++ : 中程度、+++ : 生育旺盛
- 3) 分けつ数と最大葉身長の()内は(2024.2.17)の値



写真1

【昆虫調査】 松田 賢

◆日時：9月14日 9:30～11:30 晴れ、
調査時気温：29～32℃，風：無～微

◆結果概要：9月半ばとはいえ、連日、猛暑日が続くなかでの調査となりました。入浜池でのラインセンサス調査により確認できたトンボ類は、個体数こそ100頭近くと少なくはありませんでしたが、種数としては3科6種と物足りない結果となりました。個体数の大半を占めたのが池の上を群飛するウスバキトンボで、全体の75%以上、次いでシオカラトンボ15%、ギンヤンマ5.5%となり、これらは雌雄の連結態での飛翔や産卵、なわばり争いなど、池の周辺で活発な繁殖行動が見られました。残る3種はオニヤンマ、オオシオカラトンボ、リスアカネでいずれもオス1頭のみの確認でした。リスアカネは赤く色づいていましたが、池には出ずに林縁で避暑するかのように日陰に留まっていました。本種を含め、アカネ属が池に戻ってくるのは、今年もう少し先になりそうな気配です。また今回、イトトンボ類の成虫を見ることができませんでした。その要因としては、主にシカやイノシシの食害によるとみられるヒトモトススキをはじめとする水中や水辺の植生の急激な後退が想定されますが、流入する真水や海水の流入状況の変化、猛暑の影響など近年の入浜池を取り巻く環境の変化を今後も見つけていく必要があります。

また入浜の砂浜（ハマゴウ群落）では、広島県の絶滅危惧Ⅱ類のヤマトマダラバッタをはじめ、大型のバッタ類が多数飛び交う姿が確認されました。写真で紹介します。

（写真と文：松田 賢）



写真：入浜でみられる大型バッタ類3種。ヤマトマダラバッタは海浜植生のある砂浜に生息する。海岸の自然度の高さを指標する昆虫。宮島ではいつまでも多数派の存在でいてほしい。



写真：トノサマバッタ。平地から山地まで、荒れ地や河原など、裸地が目立つ明るい草原に広く生息する普通種。



写真：クルマバッタモドキ。トノサマバッタと同様に普通種。胸部背面の「X」状の白い斑紋が特徴的である。

PV会員交流会 倉敷市重井薬用植物園

日時：9月28日（土）7:45～18:30

天候：晴れ

場所：倉敷

行事推進員：麻生

参加者：青木 伊藤 岩崎 河野 佐藤 末原

兎谷 中丸 中道 増田 舛田 森

山本(昌) 以上13名

残暑の残る中、定刻の7:45に廿日市市宮島口駐車場を出発。最初の目的地：重井薬用植物園を目指した。同園のリーフレットによれば、この植物園は、重井博氏（医療法人現創和会の創設者）により60年前に開設。創設者の部類のトンボ好きが昂じて整備された大きなビオトープを覚える施設。園長さん

の説明から、湿地を含め様々な植生が見れることを確認したが、特に、ミズアオイの保護活動に力を入れておられ、現地ボランティアの方との話題と思えたが、ご都合が合わず交流できなかったのは残念。

園長さんに促され、早目に昼食を予約した倉敷美観地区に移動、週末と重なり大勢の観光客が水路沿いの風情を楽しんでおられた。

昼食後、次の目的地、笠岡市立カブトガニ博物館に移動。カブトガニは、生きた化石と称せられ、日本では此处笠岡市に広がる汽水域が生息地の東限。博物館の入り口にカブトガニ水槽があり、成体の生態を間近に観察できる。カブトガニの成長は脱皮を何回繰り返して成体になるのかは諸説ある様子も、リーフレットには、雄が 15 回脱皮 13 年で成体、雌が 16 回脱皮 14 年で成体、寿命は推定 20 年位。今回は、特別に飼育展示室を見学、人工飼育の状況（幼生）に接し保護活動の大切さを体験できた。

博物館見学後、宮島口を目指して帰路につき、当日花火大会に伴う渋滞はあったが、

大きな遅延もなく交流会終了。担当の舛田会員には有為な企画をお礼申し上げます。



植物園見学



ミズアオイ



集合写真（重井薬用植物園）



倉敷美観地区観光



笠岡市立カブトガニ博物館玄関



概要説明 (学芸員)



動きまわるカブトガニ



集合写真 (笠岡市立カブトガニ博物館)

(文 : 青木 写真 : 河野)

自主観察会(3) 島外調査 三高山砲台跡

日時 : 10月5日 (土) 9:00~16:00

天候 : 晴れ

場所 : 江田島市沖美町美能

行事推進員 : 増田 (当日解説)

参加者 : 岩崎 大西 大林 河野 兎谷 中丸

長村 増田 舛田 山本 (昌)

以上 10名

8:45 宇品港の広島みなと公園駐車場に集合。

暑く長い夏でしたが今日は青く澄み渡った空に少し秋を感じます。

三高山砲台跡には 21 年前の 6 月、15 年前の 10 月と今回で 3 回目の訪問になります。21 年前は宮島口から美能港まで個人所有の

ボートで、15 年前は宇品港から三高港までフェリーを利用して、砲台山までは徒歩でしたが、今回は車 3 台に分乗して出かけます。

広島呉道路～第二音戸大橋～早瀬大橋～能美・三高へと快適なドライブです。

10:20 能美産直市場へ寄り道。生産者の名前の入った新鮮野菜など並べてあります。代金はそれぞれ商品のそばに置いてある料金箱に各自投入します。ちょこっとお買い物しました。

11:00 前 三高山砲台跡(402m)着、公衆トイレや駐車スペースもあり説明板や道筋も整備されていて見学しやすい場所です。

「三高山砲台跡の歴史」説明板の前で早速増田会員から資料「明治富国強兵の話」をいただき解説が始まりました。明治の軍事費比率、陸軍省が全国に砲台着工命令な

ど、広島湾の要塞は13か所、三高山は「三高山堡壘」という、広島湾の砲台・堡壘の配置図...など解説があってより詳しく知ることができます。

*大日本帝国陸軍では、要塞を建設する際、対艦射撃用の海岸砲台を「砲台」、海岸砲台の背面を守る陸戦砲台を「堡壘」として区別し、これらを複数組み合わせ、要塞を形成した。wikipedia.堡壘

掩蔽部跡（避難壕跡）えんぺいぶと読みます。敵の砲火から身を守るシェルターです。播州レンガとアーチ状のコンクリートで作られています。コンクリートの厚みで頑丈さがわかります。他の見学者もちらほら...兵舎跡は扉が開いていたので中に入ってみます。広い空間に何人寝泊まりをしていたのだろう...



三高山砲台跡の説明（増田会員）



掩蔽部跡（避難壕跡）

北部砲台跡の見学です。パノラマ展望台から宮島を見ると鷹ノ巣砲台が真向かいに見えます。双方から迎撃する拠点だったのでしょう。



三高山展望台から宮島を望む



観測所跡



集合写真（三高山展望台）



28cm 榴弾砲の砲座跡

南部砲台跡の見学です。北部砲台跡と比べると規模が小さく保存状態もあまりよくありません。



南部砲台跡

12:00 過ぎ だんだん気温も上がり日差しも強くなってきました。日陰を求めてお弁当を広げます。



昼食（三高山砲台跡駐車場）

砲台跡周辺に樹皮が鹿の子模様の「カゴノキ」が多く見られ、昼食場所では手の届くところで花の咲いたあとが見られます。大木でなかなか花を見る機会がないので、今日イチオシの樹木です。

午後は岸根鼻砲台跡へ。子供の頃家族と出かけた“がんね海水浴場”。懐かしさとここに砲台跡があったことに驚き期待して出かけます。三高山と違い整備もされず荒れ果てた状態です。途中手折られたキキヨウの花が寂しそうです。石段に設置してある手すりのチェーンは壊れかけ持つと怪我をしそう。

青い空と青い海と宮島をバックに記念撮影。指さしながら岩船岳、弥山、大砂利、陸繋島、入浜、鷹ノ巣は...、と「外から見る宮島」です。

砲台周辺を一周できるようですが藪なので来た道を帰ります。灌木や草が生い茂っ



岸根鼻砲台



集合写真（岸根鼻砲台跡）

16:00 広島みなと公園駐車場で今後の行事や連絡事項を伝えて解散です。



15年前参加した時は10km以上徒歩での行程でした。島の植物観察をしながら砲台跡を見学しましたが、今回は車移動で足の疲れもなく岸根鼻砲台まで足を延ばすことができました。車の中から見る呉の街や瀬戸

内海の島に戦争の歴史を学習した一日となりました。

一日運転して下さった3名の方はさぞお疲れだったことでしょう。大変感謝しています。

最後になりましたが、計画、準備、下見、そして当日解説いただいた方々にお礼申し上げます。



集合写真（岸根鼻海岸）

（ 文：舛田 写真：河野 ）

紅葉谷公園 補修・清掃作業

日時：10月17日（土）9：00～12：00

天候：晴れ

場所：紅葉谷公園

行事推進員：大林 兎谷 三戸

参加者：青木 岩崎 大林 折出 河野 末原
兎谷 森 吉賀 以上9名

当日は晴天に恵まれ、この季節にしては少し暑いくらいでした。

午前9時に棧橋前広場に集合した後は、紅葉谷公園まで徒歩で移動しました。途中で見た巖島神社は、大潮で回廊ぎりぎりまで海面が迫っており、神社が浮いているように見えました。この光景はテレビ等では見たことが

ありましたが、実際に見るのは初めてでしたので感動しました。紅葉谷公園で宮島さくら・もみじの会の方々と合流し、宮島パークボランティアの会からの9名を含め、総勢20名を超える参加者でした。宮島さくら・もみじの会会長と宮島地区パークボランティアの会会長から挨拶と作業指示があり、集合写真を撮って作業を開始しました。

作業は、宮島さくら・もみじの会の皆さんとの協働で行い、公園内の側溝の土砂を取り除き、その土砂で通路の荒れた窪地を整地しました。側溝は、ほぼ全部が土砂で埋まっているところや、石や枯れ枝があつたり根が張っていたりしているところもあり、作業は困難なものでしたが、無事終えることができました。宮島さくら・もみじの会の皆さんは、

樹木の周りに真砂土等で土壌改良を施したり、枯れ枝の撤去等もされました。

これから紅葉シーズンを迎え、紅葉谷公園を訪れる方が増えてくる前に、公園の補修や清掃を行い、綺麗にすることができてよかったです。

なお、宮島さくら・もみじの会は、会員不足などの理由により今年度で解散予定とのこと。長年、紅葉谷

公園補修清掃作業を協働で実施してきましたが、今回が最後の協働作業となりました。これまでありがとうございました。



(文:折出 写真:河野)

スカイ歩道 整備・清掃作業

日時：10月26日（土）9:00～11:00

天候：晴れ

場所：スカイ歩道

行事推進員：猪谷 森

参加者：青木 上杉(裕) 上杉(幸)

熊埜御堂 河野 末原 千日 兎谷

豊原 中丸 穂井田 以上 11 名

宮島栈橋前集合、少し肌寒い朝のスタートとなりました。

各自スコップなどの道具を持ち出発。紅葉谷まで、ひとりで歩くと遠く感じられますが

メンバーの皆さんとおしゃべりするとあっという間の到着です。

スカイ歩道は紅葉谷入口から博打尾を通って包ヶ浦へと続く景色の良い自然歩道です。

紅葉谷ルートなどメジャーな3本のルートは良く通っているのですが正直スカイ歩道は通った事がなく行ってみたいルートでもありました。

メンバーは到着後、それぞれに散らばり、黙々と作業にとりかかっています。



スカイ歩道は綺麗に整備されているものの枯れ葉など多く、道をふさぎ、滑りやすく、危

陰な状態。側溝には土砂や枯れ枝などたまり、水の流れを止めている状態。湿って重く、取り除くのに力のいる作業です。

新人の私もそのお手伝いができた事を嬉しく思います。

沢山の枯れ葉を綺麗に掃き倒れた木を運ぶなど水分補給をしながら皆さんで力を合わせた作業も2時間あまりで終わりました。登山客の皆様が気持ち良く安全に山行できる道になったと思います。



集合写真

(文:熊埜御堂 写真:河野)

◇編集後記◇

皆様のご協力でみせん98号を配信することができました。感謝です。

11月初旬、中国山地は紅葉の季節だが今年は少し遅れているので行き先を変えて花の情報が深い芸北町の深入山へ。晴天のススキそよぐ秋山と可憐な花に心が100%満たされる。しかし日常に戻ると、どんどんレベルが下がり1週間ではほぼ0%。



次は宮島もみじでリフレッシュ！でも人の多さは心配だ～。

※写真はウメバチソウ。(麻生)

瀬戸内海国立公園 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455